

字が書けない！

漢字が書けなくなった！

最近、若者の国語力低下が問題になっているが、これは若者の話ではない、私自身のことである。

ある日の授業中、学生の言うことが分からなかったので、どういう意味か聞いてみた。そして「それはガイチじゃなくて、キチと読むの。この字でしょ？」と黒板に「既知」と書こうとして一瞬、頭が混乱したのである。

それは老人性ナントカの始まりだと人は言うかもしれない。もちろんそれもあるだろうが、しかしそれ以上に大きな原因のあることを、私自身よく知っている。ワープロである。

ここ十二、三年ほどの間に、メモや手帳などの小さなものを除いて、私はほとんど手でものを書かなくなってしまった。手紙も、まずはワープロ（パソコン）で下書きをしてから便箋に書き写す。そのほうが書き直し自由で、結果的に早くてきれいだからだ。

そんなわけで、「既知」という既によく知っている字であるにもかかわらず、黒板に書こうとした途端、頭脳の回路のスイッチを切りそこねたようなのである。というよりはもっと怖ろし

字が書けないうい!

いことに、私の手はもはやこの単語を、k i t
i とアルファベットを打つ指の動きで記憶して
いるのかもしれない。

ことばは優れて頭腦的なもので、たとえば服
を縫ったり料理をしたりする手先の器用さなど
とは別の次元にあると思われがちだが、やはり
手先の訓練によってどのようになってもなる身体的
な側面を持っているのではないかと、改めて考
えてしまった。

今から三十年以上も前、フランスに行つて驚
いたのは、フランス人の字が下手なことだった。
役所でも銀行でも、手書きの字がまったくの力
ナクギ流なのである。理由はすぐにわかった。
タイプライターの普及である。

しかし、理由がそれだと分かっているとしても、当
時の私には、書き慣れた字にたいする信仰のよ
うなものがあった、ギクシヤクした字を書く人
の知性はどうも信頼できないというような気が
したものだ。

日本でワープロが開発されたのは、そのずつ
と後のことである。この日本語のワープロとい
うのは、じつに横文字のタイプライターなどと
は比較にもならないすごい技術で、なにしろカ

字が書けないう！！

ナかローマ字を叩くと漢字が出てくる。最近の進んだワープロは、既知、機知、吉、基地、危地：と、いっぱい候補がある中から「文脈からしてこれかな」とか、「直前に使ったのはこれ」と判断して出してくるのだから、ほんとに頭のいいコビトさんでも隠れているのではないかと思ってしまう。

アルファベットのタイプライターは打ったとおりの文字を出すのだから、ことばを知らなければ打ちようがないが、ワープロのほうは、ウ口覚えの単語でも音が正しければ店を広げられるので、そこから選んで使うことができる。そうこうするうち、熟知していたはずの字まで、いざ手で書こうとした瞬間、アレッと戸惑うことになってしまふのではないか。

黒板に向かって頭が空白になったのは、時間にしてたかだか何分の一秒のことだったと思う。しかし、私にとってはかなりショックな体験だった。それで一念発起、小学生の漢字ドリルというのを買ってきて、暇を見てやっているのだが、これがまた何ともプリミティブな手作り感覚で、童心に返れるし、悪くない。老化防止にも効用があるらしいから、字が好きな方にはお

字が書けなない!

勧めである。

初出：北國新聞「北風抄」二〇〇五年一月一七日

《追記》

一九九八年に一年間フランスに住んだ時、ある日日本文学の読書グループに招かれた。日本と同じでメンバーは中高年の奥様ふうの人が多く、いろいろ穿った質問があったが、どうにも答えられなかったのが「日本語のワープロって、ものすごい機能ですが、どうやって作られたのですか？」

これには私も「ほんとにどうなってるんでしょう。すごいですよねえ」と言うばかりだった。いまだにひたすら、ほんとにすごい、とだけ思っている。
(二〇二二年五月一七日)

ホームページ掲載 二〇二二年五月

字が書けな！

字が書けな！

既の字が書けないで戸惑ったのは、時間
れば何十分の一秒ほどのことだったと思
う。しかしそれでも、書けないショックは